

## 老人性のかゆみ 当帰飲子が有用

**Q** 六十八歳、男性。五、六年前から秋になると無性に体のあちこちがかゆくなります。皮膚科で老人性皮膚掻痒（そうよう）症との診断を受け、抗ヒスタミン剤や塗り薬をもらっていますが、なかなか改善しません。

**A** 老化は乾燥の過程である、との言葉もあるように、年を重ねるとともに皮膚のみずみずしさが失われ皮膚がカサカサしてくる。皮膚の表面の乾燥と保護作用の低下がかゆみ刺激となり、外気が乾燥する秋から冬にかけて多くの高齢者を悩ましている。

質問者の手紙にもあるように、ステロイド外用薬が初めは著効を示すが、長期使用するとしばしば皮膚が薄紙のようにペラペラとなり、わ

ずかな刺激で内出血することがある。

老人性皮膚掻痒症に最もよく使われるのが当帰飲子（とうきいんし）という漢方薬である。かゆみが強い場合は黄連解毒湯（おうれんげどくとう）を併用するとよい。化のう性皮疹を伴う場合は十味敗毒湯（じゅうみはいどくとう）を併用する。煎（せん）じた「かす」はガーゼに包んで入浴剤としても使える。

当帰飲子の中に含まれる四物湯（しもつとう）という漢方薬は皮膚に栄養を与え、シミや皮膚がポロポロふけのように落ちる状態によい。

特に当帰や地黄（じおう）は皮膚を潤す作用が強いので、この二つの生薬をそれぞれ五〜一〇g用い、五〇〇mg程度の水に入れ半量になるまで煎じて入浴剤として使うとさらによい。